

1 親切運動の取組の紹介

① アズマダチの挨拶

登校班の班長が中心となり、学校に着いたら素早く整列して、大きな声で挨拶をしてから校舎に入るのが、砺波東部小学校の伝統です。教師が教えるわけではなく、それぞれの班の上学年がお手本となって、下学年へと受け継がれています。雨の日も風の日も、さわやかな挨拶と共に、東部っ子の一日がスタートします。



② 感謝集会

日頃お世話になっている防犯パトロール員や見守り隊の方をお招きし、地区ごとに分かれて感謝の気持ちを伝える集会を行いました。子供たちが主体となって進行し、みんなで心を込めて「にじ」を合唱したり、感謝の言葉と鉢花を贈ったりしました。学校生活が地域の方々に支えられていることを再確認するとともに、感謝の気持ちをもって安全に行動しようと考えました。



③ 募金活動

ふれあい委員会が中心となり、募金活動を行いました。たくさんの子供たちが、大切なお小遣いから少しずつお金を貯めて協力してくれました。募金をすることを通して、被災した人や障害のある人、十分に教育を受けることができない人等、様々な立場の人々に目を向け、助け合っているという心が育ちました。



④ 人権教室

砺波人権擁護委員の方々をお招きし、人権教室を行いました。誰もが生まれながらにして持っている自分らしく生きる権利を確認したり、周りの人を傷つけないために日頃の自分の言動を振り返ったりしました。自分も友達も大切にしていこうという気持ちが高まりました。



2 親切運動に取り組んで

挨拶の輪が広がることで、人と関わっていく力が生まれ、よりよい人間関係を築いていく力が育ちます。今後もアズマダチの挨拶の伝統を子供たちの力で引き継いでいけるようサポートしていきます。また、子供たちによる感謝集会や募金活動、そして人権について考える機会を今後も継続していくことで、感謝する心や思いやりの心を育てられるよう活動を工夫します。